

【協働の評価】

協働で進めて いきたい理由	法律に基づく支援制度ではなく、行政と市民で構成する民間団体とが協働で実施することで、地域が一体となって助け合う仕組みづくりにつながると考えているため。 また、事業を実施する上では、それぞれの強みを活かし、協力して実施することで、相乗効果が得られるため。
協働の 成果・効果	【協働の成果目標】 それぞれの役割については、協定により定めているが、それ以上お互いに常にコミュニケーションを取り合い、協力し合って、事業の実施、改善に努める。
	【達成できた点】 ・定期的に行うスタッフミーティングにより、課題などについて協議し、改善しながら事業を実施することができた。 ・常に相互に連携を取るよう努めた。 ・協働して実施することで市民に対し、事業への理解や信用に繋がり、協力者が増えた。 【達成できなかった点】
相互評価	【事業実施前】 ★3 ○市 食料を管理する倉庫を十分に提供できるか。配布会等の事前準備や当日の担当職員を十分に配置できるか。 ○団体 食料配布会等で必要な食料を十分に確保ができるか。
	【事業実施中】 ★4 ○市 使用可能な市施設の利用について、庁内で連携し、確保に努めた。2Fにある倉庫を搬入、搬出等に使い勝手の良い1Fへ移動すべく、空くタイミングを見計らって建物管理者と折衝を行い、期中(9月)の移動を実施した。 ○団体 ・食料の提供先と密に連携することや、事業の周知をすることで、食料の確保に努めた。 ・回毎に配布する量や質に差が生じないように注意し、取り組んだ。
	【事業終了時】 ★5 ○市 食料の管理が可能な倉庫を継続して提供できた。倉庫を1Fに移動したことにより、搬入、搬出の作業量を大幅に削減することができた。配布会等に必要な職員の配置を十分に行った。 ○団体 団体 ・提供された倉庫を十分に活用し、毎月の食料の提供に必要な食料を管理、運用することができた。 ・支援が必要な方に対し、体験の場として食料配布会の場を提供するなどして、連携して支援を行った。 課題：物価高もあり、食料配布会の来場者数が増えており、(R4=1,084世帯、R5=1,282世帯、R6=1,346世帯、R7=1,348世帯) 提供数の確保が困難になってきている。 寄付の門戸の拡大と動機付け、機会の創出をしていくことが重要。
※上手くいったこと 問題点・課題など	今後の展望 引き続き、事業を継続して実施し、安定した食料支援につなげていく。 食料支援を通じ、その他必要な支援につなぐことができるよう関係各課と連携し、利用者の状況を注視していく。